

船橋市の自殺の現状

* 各種統計データのデータ出典について、特に記載のない場合は、全て厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」です。

I. 自殺死亡率・自殺者数の推移

1. 船橋市自殺死亡率(自殺日・住居地)の推移

計画の数値目標としている3年平均自殺死亡率の現状値(令和3年～令和5年平均値)は14.8で、令和2年～令和4年平均値15.5と比べ0.7ポイントの低下となっている。(【図表1】【図表2】)

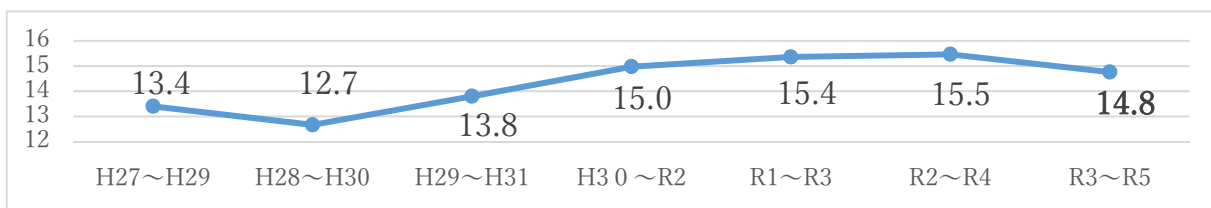
自殺死亡率の年次推移をみると、平成27年の16.4から平成28年は11.0と減少し、その後は緩やかな増加傾向になり、新型コロナウイルス感染症が発生した令和2年の16.3をピークにその後は減少し、令和5年は14.2となった。男女別でみると、男性では平成27年の22.4から平成28年には14.6と急激に減少した。その後緩やかな増加傾向になり、令和4年の20.8をピークに、令和5年は16.5に減少した。女性では平成27年の10.3から平成28年は7.4に減少した。その後緩やかな増加傾向であったが、令和2年の12.4をピークにその後は減少していたが、令和5年は12.0となり、令和4年と比べ3.4ポイント増加した。(【図表3】)

【図表1】船橋市自殺対策計画 数値目標

目標	基準値	現状値	目標値
	平成27年～平成29年平均値	令和3年～令和5年平均値	令和2年～令和4年平均値
自殺死亡率 (10万人対)	13.4	14.8	11.3

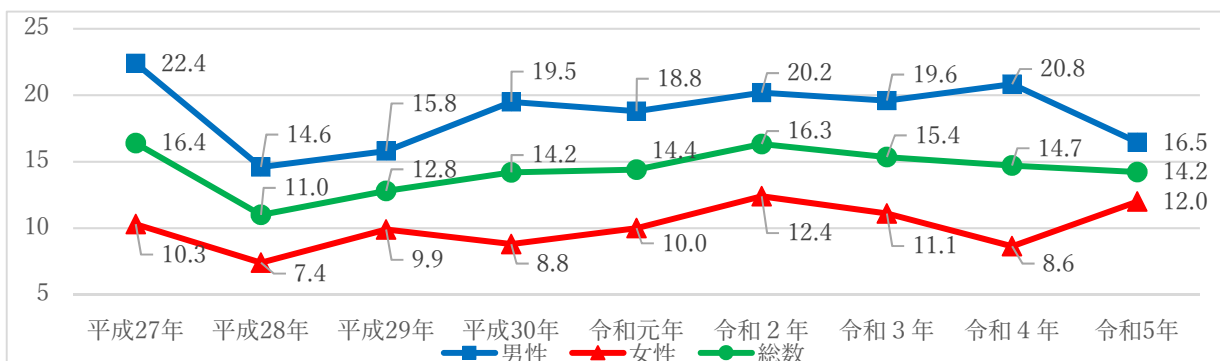
【図表2】船橋市3年平均自殺死亡率の推移

(単位：10万人対)



【図表3】船橋市自殺死亡率の年次推移

(単位：10万人対)

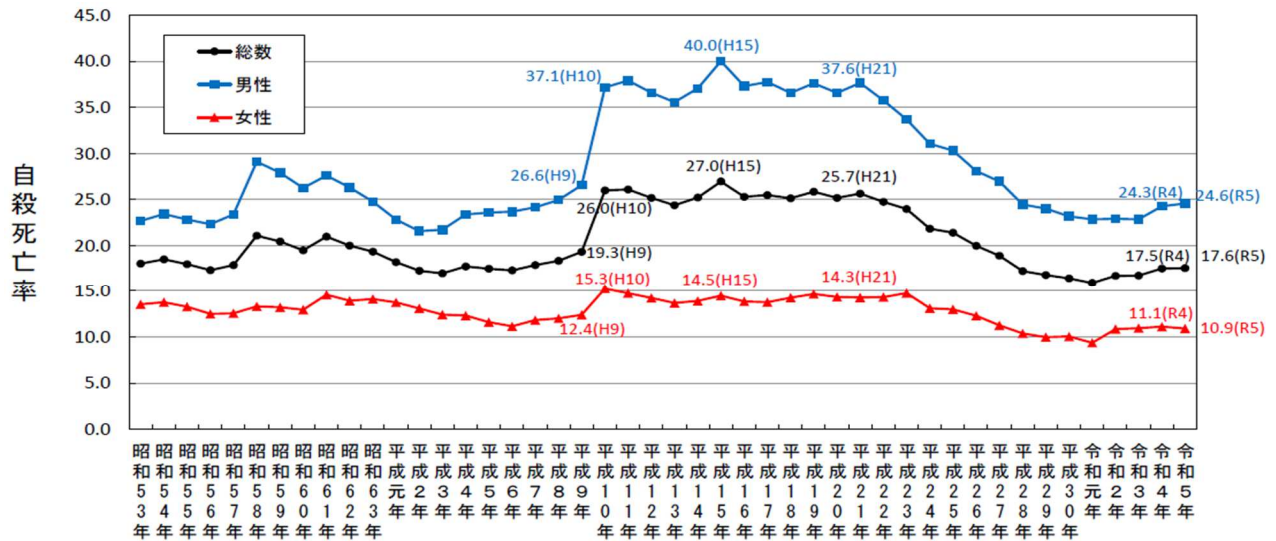


2. 国の自殺死亡率（発見日）の年次推移

令和5年の自殺死亡率は17.6（自殺者数は21,837人）となった。男女別では、男性は24.6で令和4年と比べて0.3ポイントの上昇、女性は10.9で令和4年と比べて0.2ポイントの低下となった。

（【図表4】）

【図表4】 国の自殺死亡率の年次推移



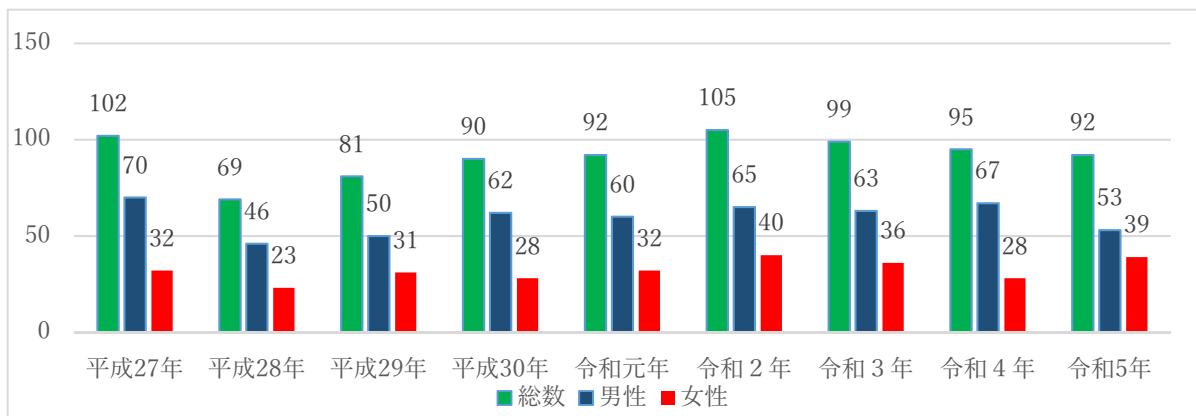
（出典：厚生労働省自殺対策推進室「令和5年中における自殺の状況」）

3. 船橋市自殺者数の年次推移

令和5年の自殺者は92人（男性53人、女性39人）。前年に比べ3人減少となっている。（【図表5】）

【図表5】 船橋市自殺者数の年次推移 （自殺日・住居地・確定値データ）

（単位：人）



II. 令和5年の船橋市の自殺の動向

- * 各種統計データのデータ出典は、特に記載のないものは、全て厚生労働省「地域における自殺の基礎資料（自殺日・住居地の令和5年確定値）」。
- * 比率は百分率で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、百分率の合計が100%にならないことがあります。

1. 自殺者数

令和5年の自殺者数は92人で、令和4年と比較し、3人減少している。男女別では、男性は14人減少し、女性は11人増加している。男性の自殺者数は、女性の約1.4倍となっている。

【図表6】自殺者数

(単位：人)

	総数	男	女
令和5年	92	53	39
(構成比)	(100.0%)	(57.6%)	(42.4%)
令和4年	95	67	28
(構成比)	(100.0%)	(70.5%)	(29.5%)
増減数	-3	-14	11
(構成比)	—	(-12.9%)	(12.9%)
増減率(%)	-3.2%	-20.9%	39.3%

2. 年代別自殺者数

令和5年の年代別自殺者数は、令和4年と同様に「50～59歳」が21人と最も多い。令和4年と比べ、「20～29歳」、「40～49歳」「50～59歳」で増加している。一方で、「80歳以上」で11人減少している。(【図表7】)

男女別年代別自殺者数では、男性は「40～49歳」が13人と最も多く、令和4年と比べ、「40～49歳」は変化なし、「70～79歳」で5人、「80歳以上」で6人減少している。女性は「50～59歳」が9人と最も多く、「20～29歳」と「50～59歳」でそれぞれ6人増加している。一方で、「80歳以上」は5人減少し、0人であった。(【図表8】)

【図表7】年代別自殺者数

(単位：人)

	総数	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
令和5年	92	2	16	14	18	21	8	10	3
(構成比)	(100.0%)	(2.2%)	(17.4%)	(15.2%)	(19.6%)	(22.8%)	(8.7%)	(10.9%)	(3.3%)
令和4年	95	2	8	16	16	17	9	13	14
(構成比)	(100.0%)	(2.1%)	(8.4%)	(16.8%)	(16.8%)	(17.9%)	(9.5%)	(13.7%)	(14.7%)
増減数	-3	0	8	-2	2	4	-1	-3	-11
(構成比)	—	0.1%	9.0%	1.6%	2.7%	4.9%	-0.8%	-2.8%	-11.5%
増減率	-3.2%	0.0%	100.0%	-12.5%	12.5%	23.5%	-11.1%	-23.1%	-78.6%

【図表 8】男女別年代別自殺者数

(単位：人)

	男性	20 歳 未満	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70-79 歳	80 歳 以上
令和 5 年 (構成比)	53 (100.0%)	0 (0.0%)	9 (17.0%)	9 (17.0%)	13 (24.5%)	12 (22.6%)	3 (5.7%)	4 (7.5%)	3 (5.7%)
令和 4 年 (構成比)	67 (100.0%)	1 (1.5%)	7 (10.4%)	9 (13.4%)	13 (19.4%)	14 (20.9%)	5 (7.5%)	9 (13.4%)	9 (13.4%)
増減数 (構成比)	-14 —	-1 -1.5%	2 6.5%	0 3.5%	0 5.1%	-2 1.7%	-2 -1.8%	-5 -5.9%	-6 -7.8%
増減率	-20.9%	-100.0%	28.6%	0.0%	0.0%	-14.3	-40.0%	-55.6%	-66.7%

	女性	20 歳 未満	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70-79 歳	80 歳 以上
令和 5 年 (構成比)	39 (100.0%)	2 (5.1%)	7 (17.9%)	5 (12.8%)	5 (12.8%)	9 (23.1%)	5 (12.8%)	6 (15.4%)	0 (0.0%)
令和 4 年 (構成比)	28 (100.0%)	1 (3.6%)	1 (3.6%)	7 (25.0%)	3 (10.7%)	3 (10.7%)	4 (14.3%)	4 (14.3%)	5 (17.9%)
増減数 (構成比)	11 —	1 1.6%	6 14.4%	-2 -12.2%	2 2.1%	6 12.4%	1 -1.5%	2 1.1%	-5 -17.9%
増減率	39.3%	100.0%	600.0%	-28.6%	66.7%	200.0%	25.0%	50.0%	-100.0%

3. 職業別自殺者数

令和 5 年の職業別自殺者数は、「有職者」が 38 人と最も多く、次いで、「年金・雇用保険等生活者」が 17 人、「その他の無職者」が 12 人となっている。(【図表 9】【図表 10】)

令和 4 年と比べ、職業別自殺者数は「主婦」で 10 人、「有職者」で 8 人増加している。一方で、「年金・雇用保険等生活者」で 15 人、「その他の無職者」で 7 人減少している。(【図表 9】)

令和 5 年の職業別自殺者を男女別でみると、「有職者」は男性 30 人、女性 8 人で、「失業者」は男性 6 人、女性 2 人で男性が多かった。そして「学生・生徒等」は男性 1 人、女性 3 人で女性が多かった。(【図表 11】)

【図表 9】職業別自殺者数

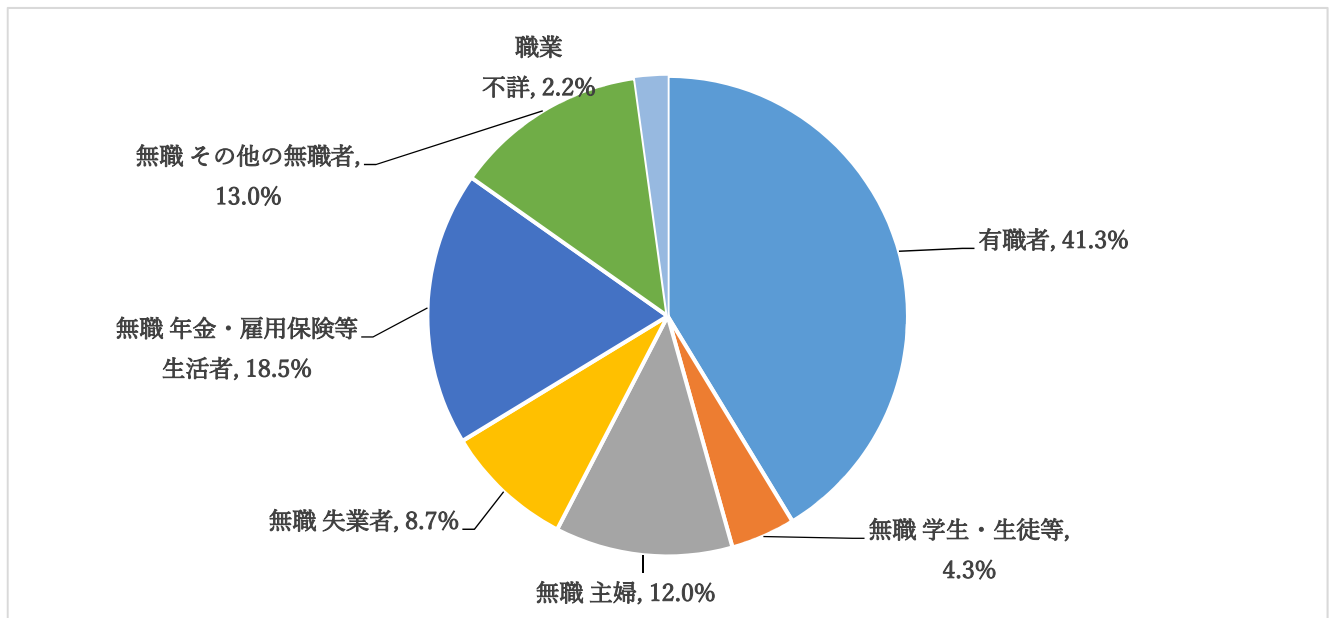
(単位：人)

	総数	有職者	無職					職業不詳
			学生・生徒等	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者	その他の無職者	
令和 5 年 (構成比)	92 (100.0%)	38 (41.3%)	4 (4.3%)	11 (12.0%)	8 (8.7%)	17 (18.5%)	12 (13.0%)	2 (2.2%)
令和 4 年 (構成比)	95 (100.0%)	30 (31.6%)	3 (3.2%)	1 (1.1%)	10 (10.5%)	32 (33.7%)	19 (20.0%)	0 (0.0%)
増減数 (構成比)	-3 —	8 (9.7%)	1 (1.2%)	10 (10.9%)	-2 (-1.8%)	-15 (-15.2%)	-7 (7.0%)	2 (2.2%)
増減率	-3.2%	26.7%	33.3%	1000.0%	-20.0%	-46.9%	-36.8%	—

* 職業について

職業は大分類で「有職者」、「無職」に区分される。「無職」は「学生・生徒等」（未就学児、小学生、中学生、高校生、大学生、専修学校生等を含む）と、「主婦」、「失業者」、「年金・雇用保険等生活者」、それ以外の無職者（利子・配当・家賃等生活者、ホームレス、その他の無職者）を「その他の無職者」に区分される。令和 4 年から、「有職者」の「自営業・家族従業者」と「被雇用・勤め人」の区分の公表がなくなりました。

【図表 10】令和 5 年職業別自殺者数の割合



【図表 11】令和 5 年職業別男女別自殺者数

(単位：人)

	総数	有職者	無職					職業 不詳
			学生・ 生徒等	主婦	失業者	年金・雇用 保険等 生活者	その他の 無職者	
男性	53	30	1	0	6	8	6	2
女性	39	8	3	11	2	9	6	0
総数	92	38	4	11	8	17	12	2

4. 自殺者の原因・動機別自殺者数

令和 5 年の原因・動機別自殺者数は、「健康問題」が 53 人と最も多く、次いで「家庭問題」が 30 人、「経済・生活問題」が 27 人となっている。(健康問題の内、うつ病等の精神疾患については、家庭問題、経済・生活問題をはじめとする他の問題が深刻化する中で連鎖して発生すること多いと考えられることに留意が必要。)(【図表 12】)

令和 4 年と比べると、令和 5 年は不詳を除き、増減数・増減率みると「勤務問題」が 5 人増加し、100.0%で、次いで「家庭問題」が 13 人増加し、76.5%となっている。(【図表 12】)

男女別でみると、男性は「健康問題」が 22 人と最も多く、次いで「経済・生活問題」が 21 人、「家庭問題」が 14 人となっている。女性は「健康問題」が 31 人と最も多く、女性の自殺者の 79.5%を占めていた。次いで「家庭問題」が 16 人となっている。(【図表 13】)

【図表 12】原因・動機特定者の原因・動機別自殺者数

(単位：人)

	原因・動機別							
	家庭問題	健康問題	経済・ 生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他	不詳
令和 5 年 自殺者総数 (n = 92 人) に占める割合	30 32.6%	53 57.6%	27 29.3%	10 10.9%	2 2.2%	1 1.1%	5 5.4%	4 4.3%
令和 4 年 自殺者総数 (n = 95 人) に占める割合	17 17.9%	59 62.1%	28 29.5%	5 5.3%	6 6.3%	0 0.0%	5 5.3%	1 1.1%
増減数	13	-6	-1	5	-4	1	0	3
増減率 (%)	76.5%	-10.2%	-3.6%	100.0%	-66.7%	—	0.0%	300.0%

注)自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注)自殺の原因・動機は、遺言等の生前の言動を裏付ける資料がある場合に加え、家族等の証言から考える場合も含め、自殺者一人につき 4 つまで計上可能である。このため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因動機特定者数とは一致しない。

【図表 13】令和 5 年原因・動機特定者の原因・動機別男女別自殺者数

(単位：人)

	原因・動機別							
	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他	不詳
令和 5 年 自殺者数男性 (n = 53 人) に占める割合	14 26.4%	22 41.5%	21 39.6%	9 17.0%	2 3.8%	1 1.9%	3 5.7%	4 7.5%
令和 5 年 自殺者数女性 (n = 39 人) に占める割合	16 41.0%	31 79.5%	6 15.4%	1 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.1%	0 0.0%
令和 5 年 自殺者数総数 (n = 92 人) に占める割合	30 32.6%	53 57.6%	27 29.3%	10 10.9%	2 2.2%	1 1.1%	5 5.4%	4 4.3%

*原因・動機の分類について

①家庭問題

夫婦関係の不和 (DV)、夫婦関係の不和 (不倫・浮気)、夫婦関係の不和 (その他の原因)、親子関係の不和、その他の家族関係の不和、家族の死亡、家族の将来悲観、介護・看病疲れ、子育ての悩み、家族からのしつけ・叱責、家族・同居人からの身体的虐待、家族・同居人からの心理的虐待、家族・同居人からの性的虐待、家族・同居人からのネグレクト、その他

②健康課題

病気の悩み (悪性新生物)、病気の悩み (てんかん)、病気の悩み (その他の身体疾患)、病気の悩み・影響 (うつ病)、病気の悩み・影響 (統合失調症)、病気の悩み・影響 (アルコール依存症)、病気の悩み・影響 (薬物乱用)、病気の悩み・影響 (摂食障害)、病気の悩み・影響 (その他の精神疾患)、身体障害の悩み、認知機能低下の悩み、その他

③経済・生活問題

事業不振、失業、倒産、就職失敗、生活苦、負債 (多重債務)、負債 (連帯保証債務)、負債 (ギャンブル等)、負債 (その他)、借金の取立て苦、奨学金の返済苦、自殺による保険金支給、その他

④勤務問題

職場の人間関係 (上司とのトラブル)、職場の人間関係 (その他)、職場環境の変化 (役割・地位の変化等)、職場環境の変化 (その他)、仕事疲れ、(長時間労働)、仕事疲れ (その他)、解雇・雇い止め、取引先等とのトラブル、仕事の失敗、過重なノルマ・ノルマの不達成、性別による差別、その他、

⑤交際問題

失恋、不倫・浮気、結婚に関する悩み、交際相手からの暴力 (DV)、ストーカー行為等、その他

⑥学校問題

学業不振、入試に関する悩み、進路に関する悩み (入試以外)、いじめ、学友との不和 (いじめ以外)、教師との人間関係、性別による差別、その他

⑦その他

犯罪被害、犯罪発覚等、SNS・インターネット上のトラブル、性的少数者であることの悩み・被差別、孤独感、近隣との関係、後追い自殺、その他の者 (家族、同居人、交際相手以外) からの虐待・暴力被害、その他

⑧不詳

5. 自殺未遂歴の有無

令和5年の自殺者のうち、自殺未遂歴「あり」は18人であった。令和4年と比較し、自殺未遂歴「あり」の割合は4.9ポイント増加している。男女別でみると男性が17.0%で、女性が23.0%の未遂歴有であった。（【図表14】【図表15】）

【図表14】自殺未遂歴の有無

（単位：人）

	自殺未遂歴の有無					
	あり	構成比	なし	構成比	不詳	構成比
令和5年	18	19.6%	66	71.7%	8	8.7%
令和4年	14	14.7%	77	81.1%	4	4.2%
令和3年	20	20.2%	72	72.7%	7	7.1%

【図表15】令和5年自殺未遂歴の有無（男女別）

（単位：人）

令和5年	自殺未遂歴の有無					
	あり	構成比	なし	構成比	不詳	構成比
男	9	17.0%	40	75.5%	4	7.5%
女	9	23.0%	26	66.7%	4	10.3%
総数	18	19.6%	66	71.7%	8	8.7%

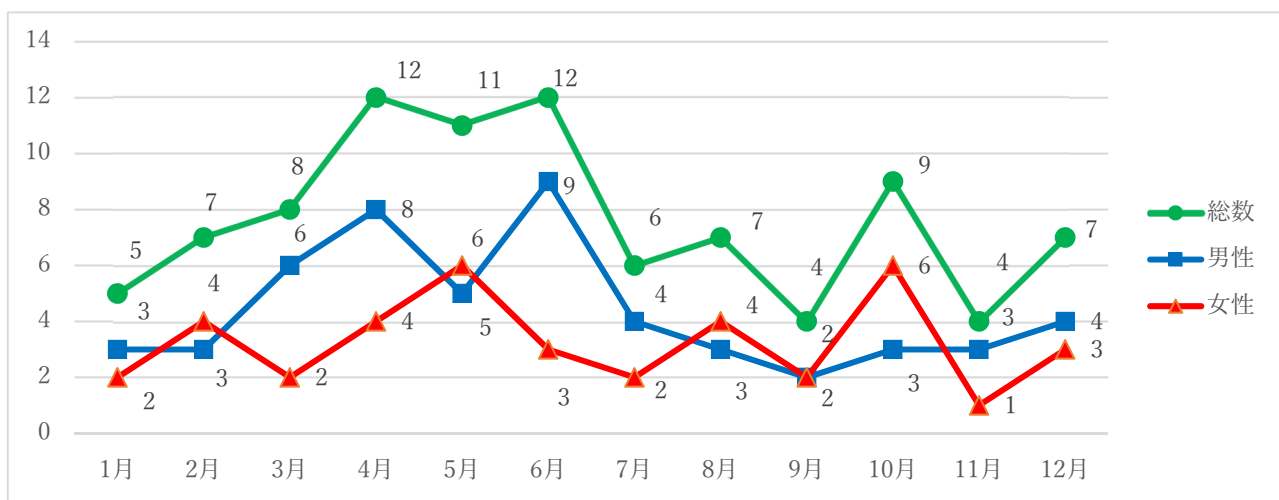
6. 月別自殺者数の推移

令和5年月別自殺者数は、4月に12人（男性8人、女性4人）、6月に12人（男性9人、女性3人）と最も多く、9月に4人（男性2人、女性2人）、11月に4人（男性3人、女性1人）と最も少なくなっている。（【図表16】【図表17】）

令和5年月別自殺者数前年比較全国・千葉県・船橋市）では、全国で3月が最も多く、千葉県で4月、船橋市で6月が最も多くなっている。（【図表18】）

【図表16】令和5年月別自殺者数

（単位：人）



【図表 17】令和 5 年自殺者数月別推移

(単位：人)

船橋市		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和5年	合計	5	7	8	12	11	12	6	7	4	9	4	7	92
	男性	3	3	6	8	5	9	4	3	2	3	3	4	53
	女性	2	4	2	4	6	3	2	4	2	6	1	3	39
累計	合計	-	12	20	32	43	55	61	68	72	81	85	92	-
	男性	-	6	12	20	25	34	38	41	43	46	49	53	-
	女性	-	6	8	12	18	21	23	27	29	35	36	39	-
令和4年	合計	7	10	7	8	7	11	7	10	12	6	7	3	95
	男性	4	7	4	4	4	8	5	7	10	5	6	3	67
	女性	3	3	3	4	3	3	2	3	2	1	1	0	28
累計	合計	-	17	24	32	39	50	57	67	79	85	92	95	-
	男性	-	11	15	19	23	31	36	43	53	58	64	67	-
	女性	-	6	9	13	16	19	21	24	26	27	28	28	-
対前年増減数 (月別)	合計	△ 2	△ 3	1	4	4	1	△ 1	△ 3	△ 8	3	△ 3	4	-
	男性	△ 1	△ 4	2	4	1	1	△ 1	△ 4	△ 8	△ 2	△ 3	1	-
	女性	△ 1	1	△ 1	0	3	0	0	1	0	5	0	3	-
対前年増減率 累計	合計	-	△ 5	△ 4	0	4	5	4	1	△ 7	△ 4	△ 7	△ 3	-
	男性	-	△ 5	△ 3	1	2	3	2	△ 2	△ 10	△ 12	△ 15	△ 14	-
	女性	-	0	△ 1	△ 1	2	2	2	3	3	8	8	11	-
対前年増減率	合計	-28.6%	-30.0%	14.3%	50.0%	57.1%	9.1%	-14.3%	-30.0%	-66.7%	50.0%	-42.9%	133.3%	-
	男性	-25.0%	-57.1%	50.0%	100.0%	25.0%	12.5%	-20.0%	-57.1%	-80.0%	-40.0%	-50.0%	33.3%	-
	女性	-33.3%	33.3%	-33.3%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	500.0%	0.0%	-	-
対前年増減率 (累計)	合計	-	-29.4%	-16.7%	0.0%	10.3%	10.0%	7.0%	1.5%	-8.9%	-4.7%	-7.6%	-3.2%	-
	男性	-	-45.5%	-20.0%	5.3%	8.7%	9.7%	5.6%	-4.7%	-18.9%	-20.7%	-23.4%	-20.9%	-
	女性	-	0.0%	-11.1%	-7.7%	12.5%	10.5%	9.5%	12.5%	11.5%	29.6%	28.6%	39.3%	-

【図表 18】令和 5 年月別自殺者数前年比較 (全国・千葉県・船橋市)

※警視庁発表令和 6 年 1 月 12 日集計暫定値 (遺体の発見日及び発見地による)

出典：千葉県健康づくり課自殺対策班作成資料

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全 国	R4	1,716	1,516	1,993	1,812	2,174	1,977	1,867	1,780	1,930	1,772	1,773	1,571	21,881
	R5	1,871	1,685	2,031	1,964	1,902	1,787	1,857	1,822	1,879	1,867	1,605	1,548	21,818
	増減	155	169	38	152	▲ 272	▲ 190	▲ 10	42	▲ 51	95	▲ 168	▲ 23	▲ 63
		9.0%	11.1%	1.9%	8.4%	-12.5%	-9.6%	-0.5%	2.4%	-2.6%	5.4%	-9.5%	-1.5%	-0.3%
千 葉 県	R4	74	58	88	66	96	97	87	81	107	89	82	69	994
	R5	73	78	84	106	87	68	73	91	87	78	72	78	975
	増減	▲ 1	20	▲ 4	40	▲ 9	▲ 29	▲ 14	10	▲ 20	▲ 11	▲ 10	9	▲ 19
		-1.4%	34.5%	-4.5%	60.6%	-9.4%	-29.9%	-16.1%	12.3%	-18.7%	-12.4%	-12.2%	13.0%	-1.9%
船 橋 市	R4	6	7	6	6	6	10	4	9	13	3	6	4	80
	R5	6	9	9	9	8	11	5	9	3	9	3	7	88
	増減	0	2	3	3	2	1	1	0	▲ 10	6	▲ 3	3	8
		0.0%	28.6%	50.0%	50.0%	33.3%	10.0%	25.0%	0.0%	-76.9%	200.0%	-50.0%	75.0%	10.0%

IV. 考察

船橋市の令和 5 年の自殺者数は 92 人で、令和 4 年と比べ、3 人減少している。男女別では、男性は 14 人減少し、女性は 11 人増加している。

年代別では、「50～59 歳」が最も多くなっている。男女別では、男性は「40～49 歳」が 13 人と最も多く、令和 4 年と比べ、「40～49 歳」は変化なし、「70～79 歳」で 5 人、「80 歳以上」で 6 人減少している。女性は「50～59 歳」が 9 人と最も多く、令和 4 年と比べ、「20～29 歳」と「50～59 歳」でそれぞれ 6 人増加している。一方で、「80 歳以上」は 5 人減少し、0 人であった。

職業別では、「有職者」が 38 人と最も多く、次いで、「年金、雇用保険等生活者」が 17 人となっている。令和 4 年と比べ、「主婦」で 10 人、「有職者」で 8 人増加している。一方で、「年金、雇用保険等生活者」で 15 人、「その他の無職者」で 7 人減少している。男女別でみると、「有職者」は男性 30 人、女性 8 人で、「失業者」は男性 6 人、女性 2 人で男性が多かった。そして「学生・生徒等」は男性 1 人、女性 3 人で女性が多かった。

自殺の原因・動機では、「健康問題」が 53 人と最も多いのは依然として変化はないが、次いで「家庭問題」が 30 人となっている。男女別では、男性は「健康問題」が 22 人と最も多く、次いで「経済・生活問題」が 21 人となっている。女性は「健康問題」が 31 人と最も多く、女性の自殺者の 79.5%を占めていた。次いで「家庭問題」が 16 人でとなっている。

厚生労働大臣指定法人 いのち支える自殺対策推進センター（J S C P）から示される最新の「船橋市 地域自殺実態プロファイル 2023」で、過去 5 年の合計の「地域の自殺の特徴」に基づき選定される「推奨される重点パッケージ」は、「高齢者」、「生活困窮者」、「勤務・経営」と示されており、その 3 つの重点に加え、最近の自殺者の増加傾向、「自殺総合対策大綱」の改定も踏まえ、「女性」「子ども・若者」を加えた 5 つを重点に、今後も船橋市の自殺対策を推進していく必要があると考えられる。

プロファイル 2023_122041 千葉県船橋市（JSCP2023）

地域自殺実態プロファイル 2023

【千葉県船橋市】

（行政区コード：122041）

推奨される重点パッケージ

重点パッケージ	高齢者 生活困窮者 勤務・経営
---------	-----------------------

- ・「推奨される重点パッケージ」は下記「地域の自殺の特徴」の上位3区分の自殺者の特性と「背景にある主な自殺の危機経路」を参考に「子ども・若者」、「勤務・経営」、「生活困窮者」、「無職者・失業者」、「高齢者」の中から選定している。「ハイリスク地」や「自殺手段」と記載がある場合は、次頁の「地域の自殺の特性の評価」で当該指標が全国で上位10%以内（☆☆）であったことを示す。
- ・「推奨される重点パッケージ」は過去5年の合計に基づいており、経年的な推移（過去5年の増加傾向等）は考慮していない。
- ・地域における優先的な課題となりうる施策について検討する際は、まず目安として「推奨される重点パッケージ」を確認いただき、その上で次頁の「地域の自殺の特性の評価」（人口10万人あたりの自殺死亡率（以下、（人口10万対）と表記）等の数値の全国の市区町村中における相対的な高低をもとに評価している）等、地域自殺実態プロファイルの他の詳細データ等を勘案していただきたい。

■ 1 地域の自殺の特徴

- ・千葉県船橋市（住居地）の2018～2022年の自殺者数は合計481人（男性317人、女性164人）であった（厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（自殺日・住居地）より集計）。

表1-1 地域の主な自殺者の特徴（2018～2022年合計）〔公表可能〕 <個別集計（自殺日・住居地）>

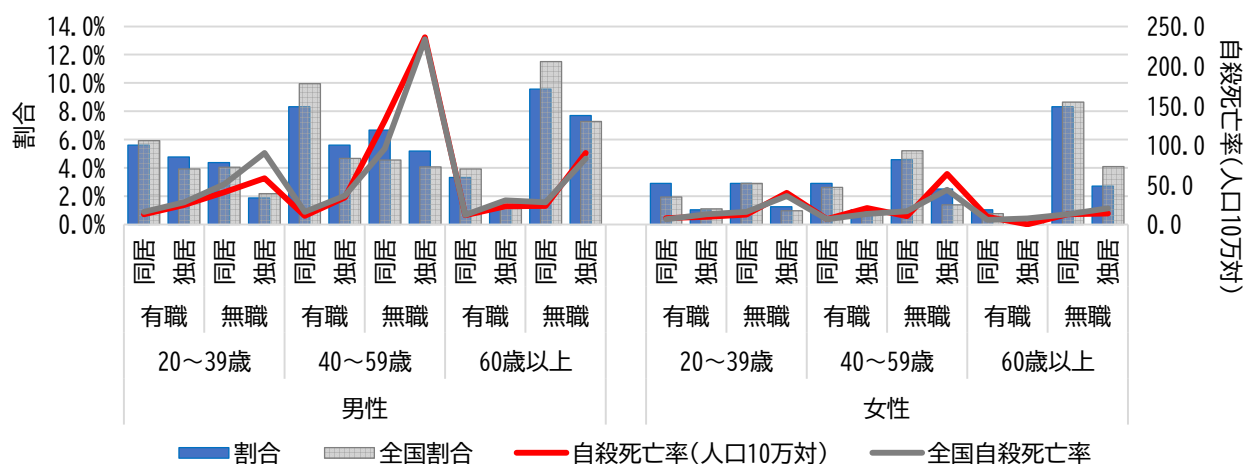
自殺者の特性上位5区分	自殺者数 (5年計)	割合	自殺死亡率* (人口10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位:男性 60歳以上無職同居	46	9.6%	23.4	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
2位:女性 60歳以上無職同居	40	8.3%	12.5	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
3位:男性 40～59歳有職同居	40	8.3%	10.8	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
4位:男性 60歳以上無職独居	37	7.7%	90.2	失業（退職）+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
5位:男性 40～59歳無職同居	32	6.7%	130.8	失業→生活苦→借金+家族間の不和→うつ状態→自殺

資料：警察庁自殺統計原票データをいのち支える自殺対策推進センター（以下、JSCP）にて個別集計・区分の順位は自殺者数の多い順で、自殺者数が同数の場合は自殺死亡率の高い順とした。

* 自殺死亡率の算出に用いた人口は、総務省「令和2年国勢調査」就業状態等基本集計を基にJSCPにて推計したもの。

** 「背景にある主な自殺の危機経路」は、ライフリンク「自殺実態白書2013」を参考に推定したもの（詳細は付表の参考表1参照）。自殺者の特性別に見て代表的と考えられる経路の一例を示しており、記載の経路が唯一のものではないことに留意いただきたい。

図1-2 地域の自殺の概要 (2018~2022 年合計) 【公表可能】 <個別集計 (自殺日・住居地)>



(数表は付表1及び2を参照)

資料：警察庁自殺統計原票データを JSCP にて個別集計

■ 2 地域の自殺の特性の評価

表2-1 地域の自殺の特性の評価 (2018~2022 年合計)

	指標値	ランク
総数*1)	15.0	-
男性*1)	19.8	-
女性*1)	10.2	-
20歳未満*1)	3.8	★
20歳代*1)	14.0	-
30歳代*1)	16.7	-
40歳代*1)	16.1	-
50歳代*1)	21.2	-
60歳代*1)	18.3	-
70歳代*1)	14.3	-
80歳以上*1)	22.4	-a
若年者(20～39歳)*1)	15.5	-
高齢者(70歳以上)*1)	17.4	-
ハイリスク地*3)	94%/-27	-
勤務・経営*2)	12.7	-
無職者・失業者*2)	30.6	-
自殺手段*4)	34.9%	-

*1) 地域における自殺の基礎資料に基づく自殺死亡率（人口10万対）。

*2) 個別集計に基づく20～59歳における自殺死亡率（人口10万対）（公表可能）。

*3) 地域における自殺の基礎資料に基づく発見地÷住居地（%）とその差（人）。

*4) 地域における自殺の基礎資料または個別集計に基づく首つり以外の自殺者の割合（%）。自殺手段関連資料（p.6）参照。

・ランク欄に「a」と表示されている場合は、自殺者1人の増減でランクが変化することを示す。

・指標値欄に「*」と表示されている場合は、指標を算出していないことを示す。

ランクの標章（詳細は付表の参考表2及び3参照）

ランク	
★★★/☆☆	上位10%以内
★★/☆	上位10～20%
★	上位20～40%
—	その他
**	評価せず

※ 全国の市区町村における当該指標値に基づく順位を評価した。